

# ミステリ読書案内

2023. 7. 27 発行元

第501号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

『ミステリ読書案内』500号発行記念特集

## これまでを振り返って その2

500号に引き続いて、『ミステリ読書案内』のこれまでを振り返ってみよう。今回は海外のミステリ作家を中心に。現在はまったく読んでいないので、過去の記憶をなんとか引き出しながら連載してきたのが本音。

### ミステリの歴史を学んでほしい

私が望むことは「ミステリの歴史を学びたいのなら『海外ミステリ』から読んでほしい」ということ。江戸川乱歩、横溝正史も読んでほしいのだけれども、E・A・ポオからシャーロック・ホームズへと続き、そしてルルーの『黄色い部屋の謎』、フィルボッツの『赤毛のレドメイン家』などと繋がってきたミステリの流れを是非感じ取ってほしいと願う。もう今になっては古々しさだけが先行する作品になってしまったかもしれないけれど…。

そして、E・クイーンの『X』『Y』『国名シリーズ』、ヴァン・ダイン、クリスティ、カー、クロフツ…是非読んでほしい。

### これまでの『ベスト表』

これまで私の『ミステリ読書案内』で取り上げた海外作家の『ベスト表』は右の表のようになる。私がその作家のほとんどの作品を読んでいる形はそう多くはないので、『ベスト表』が作れる作家の数は多くない。また、作品数が多くない作家の場合も『ベスト表』にはなりにくい。よって『～の世界』という形で取り上げてきた作家もある。

1980年代以降の新しい作家を紹介できないのが残念だ。読書を完全に「日本ミステリ」に切り替えてしまったので、今になってはどうしようもない。

今、振り返ってみれば、日本のミステリと海外のミステリと両方をまんべんなく読むことは私には出来ないことだったのだと思う。両方読むとするなら評判作・人気作だけに限定した読書になってしまうだろう。『読書案内』で少しでも自分なりのユニークさを出そうとするのは無理だったかもしれない。

### 好きな作家と言えば…

作家にしても、作品にしてもその人なりの「好み」が出るのは当然だ。右の『ベスト表』のリストを見てもそう思う。これは私なりの独自のリストでしかない。

私が好きな海外ミステリ作家は①レイモンド・チャンドラー、②エラリー・クイーン、③ウィリアム・アイリッシュ(コーネル・ウールリッチ)、④F・W・クロフツ、⑤ディクソン・カーといった順番か。その次となるとシューヴァル&ヴァール、ドナルド・E・ウエストレイク、ジョルジュ・シムノン…あたりになるだろうか…。

### これまでの『ベスト表』

#### 海外作家篇

E・S・ガードナー	第 2号
エラリー・クイーン	第 5号
ジョルジュ・シムノン	第 8号
F・W・クロフツ	第12号
ヴァン・ダイン	第15号
J・D・カー	第18号
アガ・クリステイ	第39号
怪盗ルパン	第44号
ロス・マクドナルド	第54号
コーネル・ウールリッチ	第59号
R・B・パーカー	第64号
D・E・ウエストレイク	第84号
エド・マクベイン	第87号
トニー・ケンリック	第91号
ビル・ブロンジーニ	第95号
クリスチア・ブランド	第104号
クレイグ・ライス	第115号
レックス・スタウト	第125号
アンドリュウ・ガーヴ	第130号
W・P・マッジヴァーン	第135号
カーター・ブラウン	第140号

#### 「～の世界」の形の特集

E・A・ポオ	第21号
ダシル・ハメット	第29号
シャーロック・ホームズ	第31号
レイモンド・チャンドラー	第49号
シューヴァル&ヴァール	第68号
G・K・チェスタトン	第72号
ジェームズ・クラムリー	第77号
ウィリアム・デアンドリア	第110号
コリン・ウィルコックス	第120号
パトリシア・モイーズ	第206号

#### 上記以外に「代表作」の形で

E・D・ホック	セバスチャン・ジャプリゾ	ジョー・ゴアズ
アントニー・パークリー	イーデン・フィルボッツ	ブレット・ハリディ
S=A・ステーマン	など	

### 今後、海外ミステリを読むことは…

2001年以降海外ミステリは読んでいない。時にはアンソニー・ホロヴィッツなど最近の作家の作品も…と思うこともあるが、何しろ日本ミステリでさえ、十分にはこなすことが出来ないのだ。今後、海外ミステリを読むことはあるのだろうか…？ 現在の時点では手を広げない気持ちでいる。もしかしたら、気持ちが変化することもありうるかもしれない…？ 数年先はわからない。

# 500号到達!